

## 収穫期にウンシュウミカンを加害する

### ハナアザミウマの防除対策

近年、収穫期の早い極早生や早生のウンシュウミカンでハナアザミウマによる被害が増加しています。果実が食害されると果皮が白くかすれたようになり（図1）、ひどい場合は腐敗することから、品質低下や収量の減少につながります。そこで、和歌山県果樹試験場では県内におけるハナアザミウマの発生生態を解明し、有効な防除薬剤を明らかにしたので紹介します。

#### ☆技術の概要

1. ハナアザミウマは着色期の果実に飛来します。極早生ウンシュウでは10月に発生が多くなり、果実が加害されます。
2. 秋季のセイタカアワダチソウがハナアザミウマの有力な飛来源の1つと考えられます。セイタカアワダチソウの開花初期から満開期にかけて生息数が増加すると同時に、ウンシュウミカンほ場へのハナアザミウマ成虫の飛来数が増加します。（図2）。
3. スピネトラム水和剤及びスピノサド水和剤では、ハナアザミウマに対して高い防除効果が認められました。（図3）。



図1 ハナアザミウマとその被害（左：雌成虫、中：被害果実、右：激しい加害により腐敗した果実

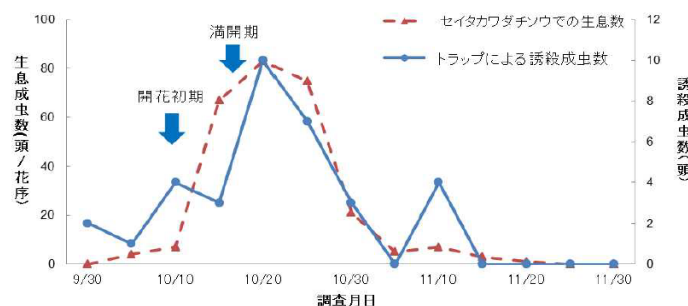


図2. ウンシュウミカンほ場周辺のセイタカアワダチソウでのハナアザミウマの生息数とほ場内の黄色粘着トラップによる誘殺成虫数(2018年)

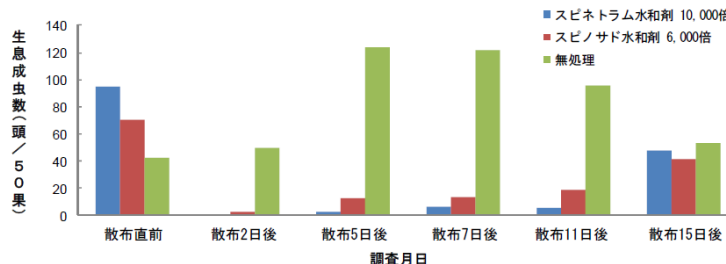


図3. ウンシュウミカンのハナアザミウマに対する薬剤の防除効果(2019年)

ほ場試験  
散布日：2019年10月5日 試験場所：有田町下津野  
供試品種：ゆら早生 供試虫：自然発生

#### ☆活用面での留意点

1. セイタカアワダチソウがほ場やその周辺でみられた場合は開花前に除草を行い、飛来源の除去に努めてください。
2. 果実が着色し始める頃からほ場内を良く見回ってください。特に樹の上部の果実同士が接した部分はハナアザミウマが生息していることが多いため、必ず観察します。1匹でも発見したら速やかに薬剤散布を行うことで、効果的に防除できます。
3. 防除薬剤はスピネトラム水和剤（収穫前日まで、2回以内）やスピノサド水和剤（収穫7日前まで、2回以内）が有効です。また、収穫日までに発生の増加がみられた場合は追加散布を行います。散布が収穫期の間近になることから薬剤の使用時期に注意が必要です。
4. 詳細は、和歌山県果樹試験場環境部（TEL:0737-52-4320）にお問い合わせください。

（農研機構果樹茶業研究部門 研究推進部 水本 文洋）